

「子どもと地域を結ぶ学校と公民館の役割」

～ “足白っ子ひろば” をとおして～

嘉麻市嘉穂地区公民館足白分館
分館長 縄田政教

1. 事業名 「足白っ子ひろば」
開始は平成23年度からで事業の対象者は足白校区の全住民
2. 目的 足白分館の青少年健全育成事業「足白っ子ひろば」を手段とした地域コミュニティの維持と住民自治の向上
3. 事業の実施主体 嘉穂地区公民館 足白分館
4. 地域の概要
5. 連携・協力機関・団体等 足白小学校全村PTA・足白小学校
6. 実施に至る経緯

足白校区は、福岡県の中央部にある嘉麻市の南部に位置し、山林と農地に囲まれた自然豊かな中山間地域である。

校区の世帯数は226戸、人口約740人、足白小学校児童数40人と小さな集落である。

はじめに、足白分館において、学社連携・融合は期限付きであり、「足白っ子ひろば」の構想から実現までが一連の事業である。

嘉穂地区の各分館では青少年健全育成事業として、子どもたちの各種体験活動や地域の方たちとの交流を事業内容とした「ひろば事業」を行っているが、足白校区だけが平成18年にアンビシャス広場が衰退・停止してから以降は青少年の健全育成に関する事業は行われていなかった。

また、嘉穂地区には小学校が6校あり、うち5校が平成26年4月に統合され嘉穂小学校として開校。それにより足白小学校は平成26年3月に廃校になり、学社連携・融合ができなくなる（消滅する）。これが期限付きの理由である。

まず、小学校がなくなるということは…

○学校から聞こえていた子どもたちの声や音楽が聞こえなくなる。

○地域住民が一堂に会す機会であった運動会や学校での集会がなくなる。

これにより、地域のコミュニティが確実に低下するのではないかと危機感がつのっていった。それをくい止めることが、現在の足白校区の大きな課題であると思ひ、その解決策の手段として、子どもたちと地域住民を巻き込む事業を立ち上げ、地域コミュニティの低下に歯止めをかけたいと思ったのがきっかけである。

また、その思いを分館の運営委員や地域の団体に伝え、共感してもらえたことで「足白っ子ひろば」の立ち上げへスタートしていったのである。

7. プログラム作成の視点

事業立ち上げへのきっかけ作りは公民館主導で、事業の企画運営においては地域主導を念頭に置いていた。地域主導にすることで、地域住民が集まり、地域の課題を住民が共有し、地域で課題解決へ向けて行動していけるようになることも重要であると考えたからである。

もともと足白校区には、「大人は全員PTAである。」という、今では伝統にもなっている全村PTAという組織があり、「足白っ子ひろば」はこの組織が担う方が足白には親しみやすいと、当時のPTA会長からの意見もあった。

このことから、分館主催事業ではあるが事業の企画運営は足白小学校全村PTAが担う形となり、地域住民が直接分館事業に関わっていく環境になっていった。

8. 事業の内容

6月に田植え、10月に稲刈り、12月に餅つきと、田舎の農村地帯でありながら、いたって単純な農業体験をさせている。

また、農作業だけでは子どもたちも飽きてしまうので、田んぼでできる遊びを取り入れている。田んぼあそびは主に小学校長が企画した。

○田植え体験

日 時：平成24年6月9日（土）8：30～12：30

場 所：公民館近くの田んぼ

参加者：80名（児童24名、大人56名）



営農組合がハイテクマシンで実践

田んぼあそび



田んぼでかけっこ

先生：「児童にまけられん！」

○稲刈り体験

日 時：平成24年10月20日（土）8：30～12：30

場 所：公民館近くの田んぼ

参加者：70名（児童28名、幼児3名、大人39名）



公民館の厨房では…



田んぼでサッカー大会
保護者も参戦！（本気モード）

○餅つき体験&「足白フェスティバル」

日 時：平成24年12月8日（土）8：30～15：30

場 所：足白小学校 ※今回は学校行事として実施。

参加者：90名（児童40名、幼児3名、中学生4名、大人43名）



駐在さんもお手伝い！



フェスティバルではアジャタ大会やしめ縄作り体験、お手玉あそびなど

9. 事業の成果

○小学校は色々な体験をとおして、子どもたちの郷土愛を育みたいと思っていたこと。分館は地域を巻き込む事業を模索していたこと。地域は小学校廃校に伴い地域コミュニティの低下に危機感を持っていたこと。この三者の思いが一つになったことから「足白っ子ひろば」の構想から実施までがスムーズにすすんだ。

○「この部分は学校でします。」「じゃ、ここは、うちの営農組合に任せてもらおう。」「おにぎり握るなら、私たちに任せね。」など、足白小学校の先生方、地域の団体や地元住民の協力体制が容易に組まれた。このことは、もともと全村PTAの活動で培われていたものであった。

○地元住民自らが、今後の足白を考えるようになって、みんなで話し合いをする機会が増え、住民自治の向上につながっている。

○「足白っ子ひろば」をとおして次のことが見えてきたこと。

今まで＝小学校が子どもたちとの関わりの場を提供。

これからは＝分館が小学校に代わって地域と子どもたちとの関わりの場を提供。

これからの分館の役割を改めて認識することができた。

10. 今後の課題

小学校が廃校となる平成26年3月で、この足白校区で学社連携・融合は消滅する。このことは足白校区だけでなく、嘉穂地区の他の校区でも同じ状況である。

小学校の統廃合は事前に手をつけない限り地域コミュニティは必ず低下し、廃校直後から衰退していくと思われるため、次のことを今後の課題としている。

残り1年余りで消滅する学社連携・融合に代わる策として、子どもの「こ」、公民館の「こ」、地域の「ち」、名づけて「こ・こ・ち いい策」を地域みんなが集まり考えていくことで地域コミュニティを維持し、さらには住民自治の向上を図っていく。

11. 問い合わせ先 〒820-0302 嘉麻市大隈町1228番地1

嘉穂生涯学習センター「夢サイトかほ」内 嘉麻市中央公民館

TEL0948-57-0080 FAX0948-57-3661